



本市から救急車が一台減る事の市長判断理由は



橋本 真由美 議員
(清流会・かさいを育む会)

問 加西市に配置されている救急車が令和8年4月以降1台減ると判断されたが、今回の救急体制の見直しは、北はりま消防組合議会で審議されていない。市議会にも事前説明や協議がない。管理者会で方向性が決定されたと理解しているが、この決定はいつ、どの会議体でどのような議論を経て、市として了承されたのか。

答 個々の市の立場を離れて全体を見つめて、しっかりと全体の視点に立って、改善改革を

図っていくというものでございますので、その趣旨に沿って安全性の確保といった面から承認した次第でございます、それが一つの大きな理由です。

問 搬送件数について、1日1.3回同時出動が起きているという事実もあるが、1台なくなると輻輳に対応できなくなる可能性がある。また、他市応援件数が増加する可能性は検証されたのか。

答 していません。

問 救急車削減の影響で到着が遅れ、命に関わる事態が起きた場合、市長は自らの判断として責任を負う考えはあるか。それとも消防組合の判断として責任は別にあると考えているのか。

答 一部事務組合を形成されていますので、そこになるの

ですが、それをもって責任と言われるのかどうかという問題もあります。

問 市長が説明を受けて納得されたということであれば、市民に説明していただきたい。タウンミーティング、文書での周知、もしくは市のホームページで説明されるのか具体策は。

答 対策する必要はないと思っております。実際に確保できるという確信のもとでの内部運用としています。

追記

管理者会から出てきた議事録での発言と、一般質問の答弁に虚偽があったため、緊急質問もさせていただきます。



市長の行政執行を問う ⑥



森田 博美 議員
(清流会・かさいを育む会)

要望

行政手続等において極めて不十分な点があり疑問が重なり増幅する。議会を軽視しないでより丁寧な説明を求めて質問したい。

問 議員定数削減と報酬の増額に対する考え方は。

答 (副市長) 本来、定数削減は議会で決めるべき事案であるが、市長の政治家としての判断で、市議会議員選挙の候補者の状況からのなり手不足や近隣市の定数を勘案し、行政改革の一環とし

て全体数を下げることで市長が最終判断しました。

問 行政経験豊富な市長と副市長からして、議員定数削減の議案提案は熟慮した結果なのか。

答 (市長) 定数は議会自らが判断して決めるべきことだと考えます。ただ、近隣市では立候補者数も多く、人口も加西市よりも多い市が14名に変更されているのに、現状を維持するという議会の判断が疑問であり、市長が提案するしかない判断しました。

問 前回修正された総合運動防災公園関連予算はどのように再検討されたのか。

答 財政負担、事業規模の妥当性、市民理解の不足等を課題として認識しています。有利な

起債、補助制度の活用、民間活力導入の可能性、財政の見通しの再検討を進め、再提案しています。(副市長) 市長の公約でもあり、将来の加西市のためにも事業化していきたくと考えています。

問 市長の公約ならばもっと丁寧な説明が必要ではないのか。広報に2回特集したことで事業が進んでいると市民に誤解を生んでいるが。

答 (市長) 30年以上前から明示して多くの方々に期待を持たせています。議員側も事業化を提言されるべきではなかったのかと疑問に思います。早期実現を求める声を多く聞いています。声がないところで強行する気はありません。今、財政的にも見通しがつく状況ですので、加西市を発展させるために投資を行い早期に進めていきたくと思っています。